

# 長崎県本土の水生甲虫類 (コツブゲンゴロウ科・ ゲンゴロウ科・ミススマシ科・ホソガムシ科・ ダルマガムシ科・ガムシ科) の記録

深川 元太郎<sup>1)</sup>

Record of Water beetles, (Noteridae, Dytiscidae, Gyridae, Hydrochidae, Hydraenidae  
and Hydrophilidae), in main land of Nagasaki Prefecture, Japan

Gentarou FUKAGAWA<sup>1)</sup>

## はじめに

長崎県における水生甲虫 (ゲンゴロウ類・ガムシ類) の記録は、これまで森・北山 (2002) など県全体の記録のほか、地域ごとの記録として、島原半島 (今坂, 1999), 多良山系 (今坂・西田, 2002), 諫早市の本明川 (江島ほか, 1988), 対馬 (白水・宮田, 1976), 壱岐 (浦川ほか, 1977), 五島列島 (江島ほか, 1981; 今坂ほか, 1994) などがあるものの、県本土全体の記録としてはあまり多くない。近年、開発や農業形態の変化など水生甲虫類を取り巻く生息環境は、悪化しているところが少なくなくようで、第4次環境省レッドリストには多くの水生甲虫類が掲載されている。本県においても、高齢化等に伴う農業の衰退なども加わり、溜池などの止水域がなくなっているところも各所でみられる。

今回、県本土を中心に松浦市の鷹島、福島、佐世保市の黒島、西海市の大島、崎戸島、長崎市の樺島の調査を実施し、深川 (2014c) により目録のみを報告した平戸島も合わせ、県本土の水生甲虫類の現状について報告する。

本調査にあたり、文献や県内の生息状況など貴重な情報を頂いた今坂正一氏、松尾照男氏、森 正人氏、西澤正隆氏、現地調査に協力して頂いた小原良典氏、多大なご支援を賜った長崎

県自然環境課、長崎市環境政策課に厚く御礼申し上げます。

## 調査地点と調査方法

調査は、2010年9月～2015年1月の期間に1地点あたり1～12回、計282地点で実施した (表1, 図1)。調査を実施した水環境は、流水域が21地点、止水域が261地点で、主に溜池が中心である。なお、前述の通り、本報告には平戸島の目録のみを報告した深川 (2014c) の採集データも併せているが、種ごとに別途報告を行なったものについては割愛した。採集は、底辺長40cm、目合い0.5mmのタモ網を用い、1地点あたり概ね30分～1時間行った。採集した個体は、必要数のみ現地で酢酸エチルを浸み込ませた脱脂綿が入った容器 (毒ビン) に入れ持ち帰り、実体顕微鏡下で筆者が種査定を行った。また、本県に関する過去の記録については、全てではないが、できるだけ網羅するよう努めた。

## 種ごとの結果

以下に種ごとについて述べる。〈記録〉は、長崎県本土だけではなく、離島を含めた長崎県内の文献を記載した。〈確認地点〉は、表1及び図1に対応しているが、括弧内では採集個体を、複数回調査を実施している地点においては、

<sup>1)</sup>〒815-2127 西彼杵郡長与町高田郷3640-3 (公社)長崎県食品衛生協会 食品環境検査センター



表1-2. 長崎県本土の調査地点

No.	地名	環境省コード No.	標高	調査日	No.	地名	環境省コード No.	標高	調査日		
Sb26	佐世保市黒美町	溜池	4929-6635	510m	23. Aug., 2014				24. Jul., 2012		
Sb27	佐世保市若方町	溜池	4929-5633	10m	4. May., 2014	Sk 7	西海市大瀬戸町雪浦幸物郷	溜池	4929-3566	200m	22. Feb., 2014
Sb28	佐世保市鹿町町口ノ里	溜池	4929-7448	150m	23. Dec., 2013				11. May., 2014		
Sb29	佐世保市鹿町町上歌ヶ浦	溜池	4929-6487	280m	9. Mar., 2014	Sk 8	西海市大瀬戸町雪浦久良木郷	溜池	4929-3506	350m	4. Aug., 2012
Sb30	佐世保市黒尾町	湿地	4929-5636	40m	1. Jun., 2014	Sk 9	西海市大瀬戸町雪浦久良木郷	溜池	4929-3516	310m	11. May., 2014
Sb31	佐世保市白飯田町	溜池	4929-6567	270m	23. Feb., 2014	Sk10	西海市大瀬戸町雪浦久良木郷	溜池	4929-3516	320m	18. May., 2014
Sb32	佐世保市陣の内町	溜池	4929-5673	30m	26. Jan., 2014	Sk11	西海市大瀬戸町雪浦久良木郷	溜池	4929-3527	260m	18. May., 2014
Sb33	佐世保市並知原町上野原	溜池	4929-6670	360m	23. Feb., 2014	Sk12	西海市大瀬戸町雪浦久良木郷	溜池	4929-3527	290m	24. Feb., 2013
					25. May., 2014	Sk13	西海市大瀬戸町雪浦河通郷	溜池	4929-3505	210m	16. Jun., 2013
Sb34	佐世保市並知原町上野原	溜池	4929-6672	510m	12. Jan., 2014				2. Nov., 2014		
					25. May., 2014	Sk14	西海市西海町木場郷	溜池	4929-4545	220m	6. May., 2014
Sb35	佐世保市並知原町上野原免	溜池	4929-6670	360m	23. Feb., 2014	Sk15	西海市西海町木場郷	溜池	4929-4556	170m	6. May., 2014
					25. May., 2014	Sk16	西海市西海町中浦北郷	溜池	4929-4524	220m	6. May., 2014
Sb36	佐世保市並知原町岡作	河川	4929-6684	660m	29. Dec., 2012	Sk17	西海市西海町横瀬郷	溜池	4929-4585	30m	6. May., 2014
Sb37	佐世保市並知原町岡作	溜池	4929-6664	600m	25. May., 2014	Sk18	西海市西海町横瀬郷	溜池	4929-4586	40m	6. May., 2014
					31. Aug., 2014	Sk19	西海市西海町木場郷	溜池	4929-4556	170m	23. Sep., 2014
Sb38	佐世保市並知原町岩巻	河川	4929-6681	170m	31. Aug., 2014	Sk20	西海市西海町横瀬郷	溜池	4929-4425	<10m	13. Jan., 2014
Sb39	佐世保市竹辺町	溜池	4929-6534	10m	15. Mar., 2014	Sk21	西海市西海町伊ノ浦郷	溜池	4929-4569	20m	6. May., 2014
Sb40	佐世保市重里町高苔	溜池	4929-6556	280m	9. Feb., 2014	Sk22	西海市西海町上岳郷	水路	4929-3673	<10m	23. Mar., 2014
					25. May., 2014	Sk23	西海市西海町鳳早郷	水路	4929-3664	60m	21. Apr., 2013
Sb41	佐世保市針尾西町	溜池	4929-5509	100m	4. May., 2014	Sk24	西海市西海町鳳早郷	溜池	4929-3664	50m	21. Apr., 2013
Sb42	佐世保市針尾西町	湿地	4929-5509	60m	4. May., 2014	Sk25	西海市西海町鳳早郷	溜池	4929-3675	<10m	23. Mar., 2014
Sb43	佐世保市澄木町	河川	4929-6664	610m	31. Dec., 2013	Sk26	西海市西海町白飯田郷	湿地	4929-3653	40m	23. Mar., 2014
					31. Aug., 2014	Sk27	西海市西海町中山郷	溜池	4929-3673	20m	31. Mar., 2012
Sb44	佐世保市牧の地町	溜池	4929-6575	310m	22. Sep., 2014				23. Nov., 2012		
Sb45	佐世保市三川内町	溜池	4929-6567	120m	1. Jun., 2014	Sk28	西海市西海町中山郷	溜池	4929-3673	10m	31. Mar., 2012
Sb46	佐世保市植木元町	溜池	4929-6569	300m	23. Feb., 2014	Sk29	西海市西海町平山郷	溜池	4929-3577	140m	22. Dec., 2013
Sb47	佐世保市吉井町乙石尾	溜池	4929-6566	240m	3. Jan., 2014	Sk30	西海市西海町平山郷	湿地	4929-3586	250m	22. Dec., 2013
Sb48	佐世保市吉井町乙石尾	溜池	4929-7565	250m	21. Mar., 2014	Sk31	西海市西海町平山郷	溜池	4929-3587	250m	22. Dec., 2013
					25. May., 2014	Sk32	西海市西海町八木郷	溜池	4929-4538	120m	6. May., 2014
Sb49	佐世保市吉井町田原	湿地	4929-6567	260m	22. Sep., 2014	Sk33	西海市西海町上岳郷	溜池	4929-3673	20m	31. Mar., 2012
					22. Sep., 2014				29. Jun., 2013		
					31. May., 2014				31. May., 2014		
					23. Sep., 2014	Sk34	西海市西海町横瀬郷	溜池	4929-5505	<10m	29. Dec., 2014
<北松浦郡佐々町>											
Sz1	北松浦郡佐々町木場免	溜池	4929-6583	200m	22. Sep., 2014						
Sz2	北松浦郡佐々町木場免	湿地	4929-6584	310m	22. Feb., 2014						
					22. Sep., 2014						
Sz3	北松浦郡佐々町口石免	溜池	4929-6562	20m	22. Feb., 2014						
Sz4	北松浦郡佐々町口石免	溜池	4929-6563	20m	22. Feb., 2014						
					2. Mar., 2014						
Sz5	北松浦郡佐々町栗林免	溜池	4929-6583	150m	22. Feb., 2014						
Sz6	北松浦郡佐々町志方免	湿地	4929-6590	140m	25. May., 2014						
Sz7	北松浦郡佐々町志方免	溜池	4929-6590	90m	3. Mar., 2014						
					25. May., 2014						
Sz8	北松浦郡佐々町平野免	溜池	4929-6573	140m	22. Feb., 2014						
Sz9	北松浦郡佐々町平野免	溜池	4929-6583	150m	22. Feb., 2014						
					22. Sep., 2014						
<東彼杵郡川棚町>											
Kr1	東彼杵郡川棚町小串郷	溜池	4929-4686	20m	1. Jun., 2014						
Kr2	東彼杵郡川棚町小串郷	溜池	4929-4687	20m	1. Jun., 2014						
Kr3	東彼杵郡川棚町新谷郷	溜池	4929-4686	20m	1. Jun., 2014						
<東彼杵郡波佐見町>											
Hm1	東彼杵郡波佐見町金屋郷	溜池	4929-5752	80m	24. Nov., 2014						
Hm2	東彼杵郡波佐見町水尾郷	溜池	4929-5736	150m	24. Nov., 2014						
Hm3	東彼杵郡波佐見町宿郷	溜池	4929-5771	60m	24. Nov., 2014						
<東彼杵郡東彼杵町>											
Hs1	東彼杵郡東彼杵町遠目郷	溜池	4930-4020	440m	1. Jun., 2014						
Hs2	東彼杵郡東彼杵町太ノ浦郷	水路	4929-4739	430m	1. Jun., 2014						
<西海市>											
Sk1	西海市大瀬戸町瀬戸東浜郷	溜池	4929-3512	80m	27. Apr., 2014						
					17. Aug., 2014						
Sk2	西海市大瀬戸町多良内郷	湿地	4929-3563	200m	29. Dec., 2013						
Sk3	西海市大瀬戸町雪浦奥浦郷	湿地	4929-3526	280m	17. Aug., 2012						
Sk4	西海市大瀬戸町雪浦奥浦郷	溜池	4929-3526	280m	23. Mar., 2014						
					27. Apr., 2014						
Sk5	西海市大瀬戸町雪浦小松郷	溜池	4929-2585	310m	23. Feb., 2014						
Sk6	西海市大瀬戸町雪浦幸物郷	灯火	4929-3545	40m	20. Jun., 2012						
					22. Jun., 2012						
					28. Jun., 2012						
					14. Jul., 2012						
					16. Aug., 2014						
					20. Oct., 2012						
					6. Apr., 2014						
					1. Feb., 2014						
					28. Sep., 2014						
					30. Jan., 2014						
					3. May., 2012						
					16. Aug., 2014						
					1. Feb., 2014						
					9. Nov., 2014						
					20. Oct., 2012						
					6. Apr., 2014						
					16. Mar., 2014						
					22. Mar., 2014						
					6. Apr., 2014						
					9. Nov., 2014						
					30. Sep., 2012						

表 1-3. 長崎県本土の調査地点

No.	地名	環境省コード No.	標高	調査日	No.	地名	環境省コード No.	標高	調査日		
				26. Oct., 2012					29. Apr. 2014		
Is22	諫早市森山町杉谷	溜池	4930-1171	<10m					5. Jul. 2014		
Is23	諫早市森山町本村	溜池	4930-1180	40m	Ns19	長崎市船石町	河川	4929-1758	90m	23. Sep., 2010	
Is24	諫早市高栄町平田	河川	4930-3057	600m	Ns20	長崎市松崎町	溜池	4929-2620	200m	7. Sep., 2014	
<西彼杵郡時津町>					Ns21	長崎市三重田町	河川	4929-1588	<10m	26. Oct., 2014	
Tp1	西彼杵郡時津町子々川熊	水路	4929-2624	<10m	20. Oct., 2010	Ns22	長崎市三原田町	河川	4929-1588	<10m	20. Oct., 2010
<長崎市>					Ns23	長崎市宮崎町	溜池	4829-7646	<10m	20. Apr., 2014	
Ns1	長崎市相川町	湿地	4929-1653	10m	24. Jul., 2011	Ns24	長崎市宮崎町	溜池	4829-7646	<10m	20. Apr. 2014
				22. Apr., 2012	Ns25	長崎市戸根原町	河川	4929-2681	40m	14. Dec. 2014	
				5. May., 2012	<雲仙市>						
				18. May., 2012	U1	雲仙市吾妻町牛口名	湿地	4930-2105	<10m	6. Apr., 2014	
				3. Jun., 2012	U2	雲仙市小浜町大亀	溜池	4930-0126	230m	23. Nov., 2014	
				7. Jul., 2012	U3	雲仙市小浜町大亀	溜池	4930-0127	260m	23. Nov., 2014	
				11. Aug., 2012	U4	雲仙市小浜町市木町	溜池	4930-0179	620m	16. Aug., 2014	
				19. Aug., 2012	U5	雲仙市小浜町止畑	溜池	4930-0116	210m	16. Nov., 2014	
				2. Sep., 2012	U6	雲仙市千々石町庚	溜池	4930-1118	220m	9. Nov., 2014	
				13. Oct., 2012	<南島原市>						
				3. Nov., 2012	Ms1	南島原市有家町尾上	溜池	4930-0214	100m	15. Nov., 2014	
				22. Dec. 2012	Ms2	南島原市有家町尾上	溜池	4930-0244	320m	15. Nov., 2014	
				10. Feb. 2013	Ms3	南島原市有家町蒲河	溜池	4930-0215	90m	15. Nov., 2014	
				2. Mar. 2013	Ms4	南島原市有家町蒲河	溜池	4930-0215	90m	15. Nov., 2014	
				8. Mar. 2014	Ms5	南島原市有家町大荒	溜池	4930-0216	50m	15. Nov., 2014	
				20. Apr. 2014	Ms6	南島原市有家町大荒	溜池	4930-0216	60m	15. Nov., 2014	
				22. Jun. 2014	Ms7	南島原市有家町草尾	溜池	4930-0226	40m	15. Nov., 2014	
				4. Oct., 2014	Ms8	南島原市加津佐町戊	溜池	4830-7156	260m	2. Dec., 2012	
Ns2	長崎市神浦北大中尾町	灯火	4929-2557	110m	27. Jun., 2013	Ms9	南島原市加津佐町乙	溜池	4830-7152	20m	16. Mar., 2014
Ns3	長崎市神浦北大中尾町	河川	4929-2565	190m	3. Nov., 2014	Ms10	南島原市加津佐町己	溜池	4830-7153	60m	22. Mar., 2014
Ns4	長崎市神浦下大中尾町	池	4929-2557	110m	17. May., 2012	Ms11	南島原市加津佐町丙	溜池	4830-7183	240m	16. Mar., 2014
				19. May., 2012	Ms12	南島原市加津佐町戊	溜池	4830-7166	230m	16. Mar., 2014	
				18. Apr., 2013	Ms13	南島原市北有馬町乙	溜池	4930-0117	250m	16. Nov., 2014	
				21. Apr., 2013	Ms14	南島原市北有馬町丁	溜池	4830-7136	50m	22. Mar. 2014	
Ns5	長崎市神浦丸尾町	河川	4929-2545	<10m	26. Jul., 2014	Ms15	南島原市西有家町長野	溜池	4830-7292	50m	16. Nov., 2014
Ns6	長崎市琴海大平町	湿地	4929-3644	<10m	18. May. 2014	Ms16	南島原市西有家町長野	溜池	4830-7292	70m	16. Nov., 2014
Ns7	長崎市琴海大平町	湿地	4929-3644	<10m	4. Nov., 2013	Ms17	南島原市南有馬町甲	溜池	4830-7137	170m	22. Mar. 2014
Ns8	長崎市琴海尾上町	水路	4929-3644	<10m	4. Nov., 2013						
Ns9	長崎市琴海形上町	溜池	4929-3519	430m	18. May. 2014						
				17. Aug., 2014							
Ns10	長崎市琴海形上町	溜池	4929-3529	430m	9. Feb., 2014						
				22. Feb., 2014							
				6. May., 2014							
				24. Nov., 2014							
Ns11	長崎市琴海形上町	水路	4929-3622	<10m	4. Nov., 2013						
Ns12	長崎市琴海村松町	河川	4929-2642	<10m	21. Sep. 2013						
Ns13	長崎市小江原一丁目	湿地	4929-1637	150m	8. Mar., 2014						
Ns14	長崎市新牧野町	ダム	4929-2528	210m	3. Nov., 2014						
Ns15	長崎市千々町	溜池	4829-7688	300m	20. Apr., 2014						
Ns16	長崎市長瀬町	河川	4929-3601	30m	9. Aug., 2014						
Ns17	長崎市永田町	湿地	4929-1597	<10m	2. Jun., 2012						
				8. Jul., 2012							
				18. Aug., 2012							
				1. Sep., 2012							
				8. Sep., 2012							
				13. Oct., 2012							
				3. Nov., 2012							
				19. Jan., 2013							
				10. Feb., 2013							
				27. Apr., 2014							
				21. Sep., 2014							
Ns18	長崎市野母崎樟島町	湿地	4829-6662	<10m	10. Oct. 2010						
				25. Jun. 2011							
				11. Sep. 2011							
				23. Sep. 2011							
				9. Jun. 2012							
				22. Sep. 2012							
				7. Apr. 2013							
				14. Apr. 2013							
				5. May. 2013							
				15. Jun. 2013							
				13. Jul. 2013							
				24. Aug. 2013							
				15. Feb. 2014							

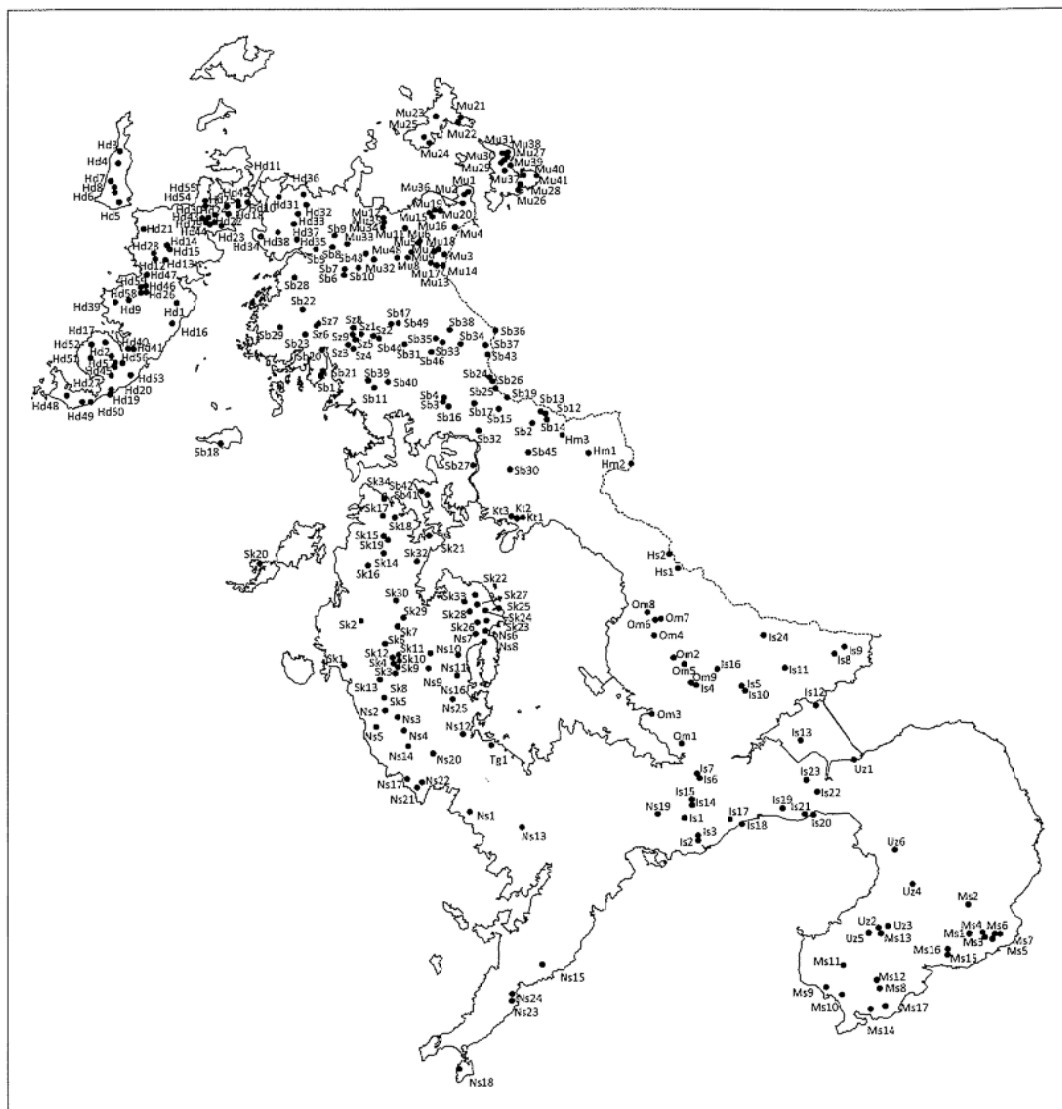


図1. 調査地点

年月日をその後に記した。なお、今回、複数回現地調査を実施したにも関わらず、雌のみの確認で種を判別できなかったものについては、セスジゲンゴロウ属の一部を除き、掲載を見送っている。また、同所で雌雄が採れていて、種の判断が雄交尾器のみによる場合、雄による種の判断ができた地点の雌個体は、同じ種として取り扱っている。そのため、ケシゲンゴロウ属やセスジゲンゴロウ属など1地点で複数採取しているところでは、複数種が含まれている可能性がある。

コツブゲンゴロウ科 *Noteridae*  
 キボシチビコツブゲンゴロウ  
*Neohydrocoptus bivittis* (Motschulsky, 1859)  
 <記録>松井 (2004)

松浦市の記録1例のみである。佐賀県の生息状況は不明であるが、福岡県では数ヶ所の生息場所が知られている(井上・中島, 2009)。環境省レッドデータリスト(以下, RDLと略す)の絶滅危惧I B類。本県での再発見が望まれる。

ムモンチビコツブゲンゴロウ *Neohydrocoptus* sp.  
 <記録>深川 (2014a)

西海市の低山地（標高約300m）にある止水域で確認されている。県内では今のところ唯一の記録となっている。大きさが2mm以下と小さく、発見しづらい種であることから今後新たな生息地が見つかる余地が残されている。環境省RDLの絶滅危惧Ⅱ類。

コツブゲンゴロウ *Noterus japonicus* Sharp, 1873  
＜記録＞楠井（1994）、森・北山（2002）、大庭ほか（2010）、松尾ほか（2014）、大串（2014c）、深川（2014c）

＜確認地点＞Hd2(2exs. 2014. 4. 12), Hd9(1ex.), Mu12(2exs.), Mu23(1ex. 2014. 9. 6), Sz4(1ex. 2014. 3. 2), Sz6(4exs.), Sb34(3exs. 2014. 1. 12, 1ex. 2014. 5. 25), Sb37(1ex. 2014. 5. 25), Sb40(1ex. 2014. 5. 25), Sk1(1ex. 2014. 8. 17), Sk4(2exs. 2014. 3. 23, 1ex. 2014. 4. 27), Sk7(1ex. 2014. 5. 11), Sk9(1ex.), Sk16(1ex.), Sk25(2exs.), Ns1(2exs. 2011. 7. 24, 1ex. 2012. 5. 5, 1ex. 2012. 6. 3, 1ex. 2012. 7. 7, 1ex. 2012. 8. 11, 2exs. 2012. 9. 2, 6exs. 2012. 11. 3, 2exs. 2012. 12. 22, 9exs. 2014. 3. 8, 1ex. 2014. 4. 20, 2exs. 2014. 6. 22, 3exs. 2014. 10. 4), Ns10(1ex. 2014. 2. 22, 2exs. 2014. 11. 24), Ns17(1ex. 2012. 7. 8, 1ex. 2012. 8. 18, 3exs. 2012. 9. 1, 2exs. 2014. 4. 27), Ns18(1ex. 2010. 10. 10, 1ex. 2011. 6. 25, 1ex. 2011. 9. 11, 1ex. 2012. 9. 22, 3exs. 2013. 4. 7, 1ex. 2013. 4. 14, 4exs. 2013. 5. 5, 1ex. 2013. 6. 15, 1ex. 2013. 7. 13, 1ex. 2014. 2. 15, 1ex. 2014. 7. 5), Ns24(1ex.), Is20(4exs. 2014. 3. 16, 1ex. 2014. 11. 9)

本種は、本科の中では最も普通にみられる種で、県内でもこれまでに長崎市、宇久島、平戸島で記録されている。今回、県本土に広く分布していることが明らかとなった。標高も平地から低山地（標高約600m）まで確認している。湿地や溜池の浅部にある枯死した植物が堆積したような環境で見つかることが多い。

ムツボシツヤコツブゲンゴロウ *Canthydrus politus* (Sharp, 1873)

＜記録＞大串（2014a, 2014c）

＜確認地点＞Ns14(19exs.), Ns17(28exs. 2014. 4.

27, 8exs. 2014. 9. 21)

本種は、長崎市の湿地公園から記録されている。今回、本湿地公園の近くにある止水域でも多くの個体を確認したが、西彼杵半島のこの狭い範囲以外では今のところ見つかっていない。生息環境は、前種と類似しており、同時に採取されることも少なくない。環境省RDLの絶滅危惧Ⅱ類。

ゲンゴロウ科 Dytiscidae

キボシケシゲンゴロウ *Allopachria flavomaculata* (Kamiya, 1938)

＜記録＞Kamiya（1938）、白水・宮田（1976）、中根（1980）、江島ほか（1981）、佐藤（1985）、深川・細江（2001）、初宿（2011）、森・北山（2002）

＜確認地点＞Ns16(3exs.)

本県では対馬、五島福江島（基産地）、西彼杵半島での記録がある。本調査でも対馬下島と西彼杵半島（長崎市）の各1ヶ所で確認しているが、調査不足である。河川上流の緩流部にある川岸の礫や石の間隙で見つかる。環境省RDLの情報不足。

ケシゲンゴロウ *Hyphydrus japonicus* Sharp, 1873

＜記録＞江崎ほか（1938）、白水・宮田（1976）、今坂（1999）、今坂・西田（2002）、森・北山（2002）、松井（2004）、足立（2013）、深川（2014c）、松尾ほか（2014）

＜確認地点＞Hd19(8exs.), Hd37(1ex. 2013. 12. 21, 9exs. 2014. 5. 17), Hd45(2exs.), Hd49(2exs.), Hd55(10exs.), Mu1(12exs.), Mu19(11exs.), Mu21(5exs. 2014. 4. 26), Mu23(3exs. 2014. 9. 6), Mu24(12exs. 2014. 9. 6), Mu28(2exs. 2014. 4. 26), Mu33(1ex.)

松浦市や平戸市の平地から低山地（標高約150m）の止水域で確認された。県内ではこれまで島原半島、諫早市、宇久島及び対馬で知られているが、県南部では少ないようである。環境省RDLの準絶滅危惧。

チビマルケシゲンゴロウ *Hydrovatus pumilus*

Sharp, 1882

<記録>深川 (2015a)

長崎市内の休耕田を利用したビオトープで確認されているのみである。本地点では、これまで複数の個体を確認しているの、定着しているものと考えられる。環境省 RDL の準絶滅危惧。

マルケシゲンゴロウ *Hydrovatus subtilis* Sharp, 1882

<記録>今坂・西田 (2002) : 諫早市, 足立 (2013) : 西海市, 松尾ほか (2014) : 宇久島, 深川 (2015a) : 長崎市, 伊藤ほか (2015)

<確認地点>Sk1(4exs. 2014. 4. 27), Sk4(1ex. 2014. 3. 23), Sk7(11exs. 2014. 5. 11), Ns1(1ex. 2014. 4. 20, 4exs. 2014. 6. 22)

これまでのところ、西彼杵半島の平地～低山地(標高約300m)で確認しているが、諫早市や離島の宇久島でも記録があり、局所的ながら他の地域でも見つかる可能性がある。次種よりも若干大きく、体幅も広いようであるが、雄の交尾器中央片で確認するのが確実である。環境省 RDL の準絶滅危惧。

コママルケシゲンゴロウ *Hydrovatus acuminatus*

Motschulsky, 1859

<記録>松井 (2004) : 松浦市, 深川 (2014c) : 平戸市

<確認地点>Hd35(1ex.), Mu12(6exs.), Mu23(1ex. 2014. 4. 26), Sz6(7exs.), Ns18(1ex. 2011. 6. 25, 1ex. 2014. 4. 29)

県北部と長崎市南部の平地～低山地(標高約150m)で確認している。やや開けた環境を好むようである。長崎市街地近くの人工的に造成された池でも多数確認している(未発表)。環境省 RDL の準絶滅危惧。

オオマルケシゲンゴロウ *Hydrovatus bonvouloiri*

Sharp, 1882

<記録>今坂 (1999), 深川 (2014c, 2015a)

<確認地点>Hd9(1ex.), Sk1(4exs. 2014. 4. 27),

Sk4(2exs. 2014. 3. 23), Sk7(2exs. 2014. 5. 11), Sk9(2exs.), Ns1(1ex. 2011. 7. 24, 1ex. 2012. 5. 5, 1ex. 2014. 4. 20, 10exs. 2014. 6. 22, 4exs. 2014. 10. 4), Ns18(5exs. 2013. 4. 14, 1ex. 2013. 6. 15, 10exs. 2014. 4. 29)

西彼杵半島と長崎市一帯及び平戸島の平地から低山地(標高約300m)の止水域で確認された。西彼杵半島以外では局所的である。県内ではこれまで高原半島でも記録されているが、本調査では確認できなかった。環境省 RDL の準絶滅危惧。

チャイロチビゲンゴロウ *Allodessus megacephalus* (Gschwendtner, 1931)

<記録>M.Sato (1964), 池崎・江島 (1990), 今坂・西田(2002), 森・北山(2002), 松井(2004), 深川 (2014d)

県本土では、諫早市で、離島では対馬、壱岐、五島福江島、男女群島の記録がある。県内では海岸の飛沫帯やその付近にある岩礁の潮溜まりで主に確認されているが少ない。

チビゲンゴロウ *Hydroglyphus japonicus*

(Sharp, 1873)

<記録>中條 (1961), 白水・宮田 (1976), 江島ほか (1981), 今坂ほか (1987), 今坂 (1999), 松尾 (2000), 森・北山 (2002), 松井 (2004), 大庭ほか (2010), 初宿 (2011), 大串 (2013, 2014c), 深川 (2014c), 松尾ほか (2014), 伊藤ほか (2015)

<確認地点>Hd2(1ex. 2014. 4. 12), Hd12(1ex.), Hd15(3exs. 2014. 8. 10), Hd18(1ex.), Hd26(1ex.), Hd27(1ex. 2014. 4. 5), Hd28(1ex. 2014. 5. 24, 1ex. 2014. 5. 31), Hd32(3exs.), Hd35(2exs.), Hd36(1ex.), Hd37(1ex. 2014. 5. 17), Hd43(2exs.), Hd45(1ex.), Hd46(1ex.), Hd53(1ex.), Hd54(4exs. 2014. 3. 15), Hd55(1ex.), Hd56(8exs.), Hd57(3exs.), Mu2(1ex.), Mu3(5exs.), Mu4(1ex.), Mu5(1ex. 2014. 5. 3), Mu7(5exs. 2014. 5. 3), Mu8(1ex.), Mu9(1ex.), Mu10(3exs.), Mu11(2exs.), Mu12(3exs.), Mu13(1ex.), Mu15(1ex.), Mu17(2exs.), Mu19(1ex.), Mu21(4exs. 2014. 4. 26), Mu23(1ex.

2014. 4. 26, 2exs. 2014. 9. 6), Mu24 (2exs. 2014. 9. 6), Sz4 (5exs. 2014. 2. 22, 15exs. 2014. 3. 2), Sz6 (3exs.), Sb9 (1ex.), Sb10 (1ex. 2014. 5. 25), Sb12 (1ex.), Sb13 (2exs.), Sb30 (1ex.), Sb37 (5exs. 2014. 5. 25), Sb41 (1ex.), Sb42 (1ex.), Sb48 (4exs. 2014. 3. 21, 1ex. 2014. 5. 25), Kt1 (1ex.), Sk1 (2exs. 2014. 4. 27), Sk7 (1ex. 2014. 5. 11), Sk9 (1ex.), Sk13 (2exs. 2014. 11. 2), Sk18 (1ex.), Tg1 (14exs.), Ns2 (1ex.), Ns9 (1ex. 2014. 5. 18), Ns14 (1ex.), Is17 (1ex.), Is19 (1ex.), Is20 (1ex. 2014. 3. 16, 15exs. 2014. 3. 22, 1ex. 2014. 4. 6, 1ex. 2014. 11. 9), Is22 (2exs. 2014. 8. 16), Om1 (1ex. 2014. 4. 20), Om3 (1ex.), Uz1 (1ex.), Uz4 (4exs.), Uz5 (5exs.), Ms1 (1ex.), Ms9 (4exs.), Ms10 (6exs.), Ms14 (3exs.)

県内で最も普通に確認される種の一つである。県本土各地の平地～低山地（標高約600m）にある止水域でみられる。県内でもこれまで各地で記録されており、以前から本種にとっては健全な状態が維持されているものと思われる。対馬、壱岐、五島などの島嶼でも記録がある。

アンピンチビゲンゴロウ *Hydroglyphus flammulatus* (Sharp, 1882)

<記録>深川 (2014b, 2014c)

平戸島で最近確認された種である。九州本土ではほとんど採れていない。環境省 RDL の情報不足。

ホソマルチビゲンゴロウ *Leiodytes miyamotoi* (Nakane, 1990)

<記録>深川 (2014c), 松尾ほか (2014)

<確認地点>Hd36 (10exs.), Hd37 (7exs. 2014. 5. 17), Mu1 (12exs.), Mu19 (23exs.), Is23 (29exs.)

今回、諫早市と松浦市の平地～低山地（標高約150m）で確認されたが、やや局所的である。離島では五島列島の宇久島の記録がある。体長が2mm弱と小さく、現地で見つけにくい種であるので、今後も新たな産地が発見される可能性がある。生息地では多産していることが多い。環境省 RDL の情報不足。

ナガマルチビゲンゴロウ *Leiodytes kyushuensis*

(Nakane, 1990)

<記録>深川 (2014c), 深川・今坂 (2014)

<確認地点>Hd9 (1ex.), Hd32 (1ex.), Sk1 (11exs. 2014. 4. 27, 3exs. 2014. 8. 17), Sk13 (2exs. 2014. 11. 2), Ns1 (1ex. 2014. 6. 22), Ns17 (2exs. 2014. 4. 27), Ns18 (5exs. 2014. 4. 29), Ns23 (18exs.), Uz4 (5exs.), Ms3 (1ex.)

深川 (2014) 以降で確認された場所は、平戸市2ヶ所、西海市2ヶ所、長崎市1ヶ所及び雲仙市1ヶ所であり、県本土では広く分布していることが確認された。離島では五島列島福江島、対馬で確認されている（未発表）。止水域の枯死した草が堆積した数cm以下のごく浅い水域に見られることが多い。

ツブゲンゴロウ *Laccophilus difficilis* Sharp, 1873

<記録>楠井 (1993), 今坂 (1999), 初宿 (2011), 深川 (2014c), 松尾ほか (2014)

<確認地点>Hd18 (1ex.), Hd44 (1ex.), Hd52 (2exs.), Mu19 (1ex.), Mu21 (5exs. 2013. 12. 30, 7exs. 2014. 4. 26), Mu24 (5exs. 2014. 9. 6), Sz6 (9exs.)

本属の中では最も普通に見られる種であるが、県本土では決して多くない。離島では江ノ島、福江島、宇久島の記録がある。

ルイスツブゲンゴロウ *Laccophilus lewisius* Sharp, 1873

<記録>今坂 (1999), 深川 (2014c, 2014d)

県内では島原半島の記録のみだったが、最近平戸の3ヶ所でも見つかった（深川, 2014c, 2014d）。島原半島ではその後確認されていないことから、生息地が少なくなっている可能性がある。環境省 RDL の絶滅危惧Ⅱ類。

シャープツブゲンゴロウ *Laccophilus sharpi* Regimbart, 1889

<記録>江島ほか (1981), 江島ほか (1988), 今坂 (1999), 松尾 (2000), 森・北山 (2002), 初宿 (2011), 松尾ほか (2014)

県内の記録は、県本土、平戸島、対馬、五島福江島、宇久島があり、県内に広く生息する普通種であったようである。今回の調査では全く



確認することができず、急激に生息地を減らしている可能性がある。環境省 RDL の準絶滅危惧。

ホソセスジゲンゴロウ *Copelatus weymarni*

Balfour-Browne, 1946

<記録>阿比留ほか (1986), 今坂ほか (1987), 今坂 (2009), 森・北山 (2002), 松尾ほか (2014), 深川 (2015b)

<確認地点>Mu23 (3exs. 2014. 9. 6), Mu24 (1ex. 2014. 9. 6), Sb48 (5exs. 2014. 3. 21, 2exs. 2014. 5. 25), Hs2 (2exs.), Sk3 (3exs.), Sk4 (1ex. 2014. 4. 27), Sk6 (1ex. 2012. 7. 24), Sk7 (4exs. 2014. 5. 11), Sk9 (3exs.), Sk13 (1ex. 2014. 11. 2), Ns18 (1ex. 2014. 7. 5), Is20 (3exs. 2014. 3. 22), Uz1 (6exs.)

県本土の平地～低山地 (標高約450m) に広く分布しているが、やや局所的である。セスジゲンゴロウ属の多くは、轍にできた水溜りなど不安定な水域で見つかることが多く、今回の調査地点とは若干ずれている可能性がある。離島では対馬、宇久島の記録がある。

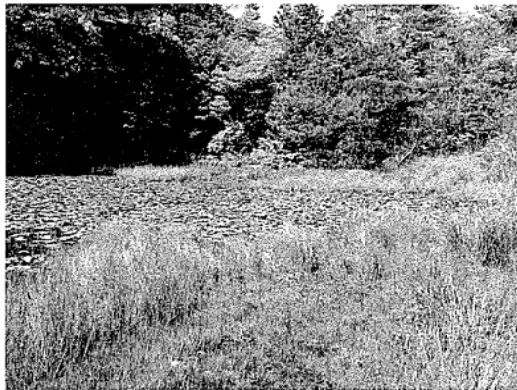


図2. 西海市の水生甲虫類生息地 (Sk9)

セスジゲンゴロウ *Copelatus japonicus*

Sharp, 1873

<記録>今坂 (1999), 松井 (2004), 松尾ほか (2014), 深川 (2015b)

<確認地点>Mu24 (11exs. 2014. 9. 6), Ns17 (1ex. 2014. 9. 21), Is12 (1ex.), Uz1 (5exs.), Ms10 (1ex.)

松浦市鷹島と県南部の平地で確認しているがあまり多くない。離島では宇久島の記録がある。

ヒコサンセスジゲンゴロウ *Copelatus takakurai*  
M.Sato, 1985

<記録>深川 (2012, 2015b)

西彼杵半島の低山地 (標高約400m) にある轍の水たまりや溜池で確認されている。県内では局所的で少ない。

チンメルマンセスジゲンゴロウ

*Copelatus zimmermanni*

Gschwendtner, 1934

<記録>今坂ほか (1994), 野村ほか (1996), 今坂 (1999), 多比良・北野 (2000), 長崎県 (2001), 森・北山 (2002), 池崎 (2003), 足立 (2013), 深川 (2014a, 2014d, 2015b), 松尾ほか (2014), 伊藤ほか (2015)

<確認地点>Ns18 (1ex. 2014. 7. 5)

西彼杵半島や県本土南部の平地～低山地 (標高約400m) で確認されているが少ない。離島では福江島と宇久島の記録がある。長崎県 RDL の絶滅危惧Ⅱ類。

セスジゲンゴロウ属 *Copelatus* sp.

<確認地点>Sb36 (1ex.)

冬季に佐世保市の国見山麓 (標高約650m) の枯れ沢の石の下より越冬中の本属第10群 (Sharp, 1882) の雌1個体が確認された。今後の雄の発見に期待したい。

モンキマメゲンゴロウ *Platambus pictipennis*

(Sharp, 1873)

<記録>江崎ほか (1938), 中條 (1961), 白水・宮田 (1976), 今坂ほか (1987), 今坂 (1999), 松尾 (2000), 桃下 (2001), 森・北山 (2002), 初宿 (2011), 深川 (2014c)

<確認地点>Hd5 (1ex. 2011. 11. 12), Hd14 (2 exs.), Hd28 (6exs. 2014. 5. 24, 1ex. 2014. 5. 31), Mu3 (1ex.), Mu13 (1ex.), Sb37 (3exs. 2014. 5. 25), Sb38 (3exs.), Sb43 (3exs. 2014. 8. 31), Sk13 (2exs. 2014. 11. 2) Ns1 (1ex. 2012. 12. 22), Ns5 (1ex.), Ns10 (1ex. 2014. 5. 6), Ns15 (1ex.), Ns19 (1ex.)

今回、流水域の調査地点が少なく、確認地点も少なくなっているが、県本土各地の平地～低

山地（標高約600m）の河川に普通に生息しているものと思われる。対馬、五島福江島の記録もある。

コクロマメゲンゴロウ *Platambus insolitus*  
(Sharp, 1884)

<記録>今坂(1999)

島原半島の記録のみである。この後の記録がなく、再発見が望まれる。

サワダマメゲンゴロウ *Platambus sawadai*  
(Kamiya, 1932)

<記録>今坂ほか(1987)、森・北山(2002)

<確認地点>Is24(6exs.)

県内では多良山系と対馬の記録がある。今回確認した場所は、今坂正一氏からご教示頂いたところである。河川源流部の砂防堰下にある小規模な淵で、5~10cm大の石が川岸に堆積した間隙から採集することができた。

ホソクロマメゲンゴロウ *Platambus optatus*  
(Sharp, 1884)

<記録>深川(2015a)

佐世保市の国見山系と西彼杵半島の低山地の湿地や溜池の水際に生息している。

クロズマメゲンゴロウ *Agabus conspicuus*  
Sharp, 1873

<記録>中條(1961)、白水・宮田(1976)、阿比留・今坂(1983)、森・北山(2002)、初宿(2011)、深川(2014c)、伊藤ほか(2015)

<確認地点>Hd18(1ex.), Sb37(1ex. 2014. 5. 25), Sk1(3exs. 2014. 4. 27), Sk8(2exs.), Sk9(2exs.), Sk15(3exs.), Sk23(1ex.), Sk24(1ex.), Ns1(4exs. 2012. 4. 22, 1ex. 2012. 5. 5, 1ex. 2012. 5. 18, 1ex. 2012. 7. 7, 1ex. 2012. 10. 13, 1ex. 2012. 11. 3, 2exs. 2012. 12. 22, 2exs. 2014. 4. 20, 12exs. 2014. 6. 22), Ns9(1ex. 2014. 5. 18), Ns10(1ex. 2014. 2. 9, 1ex. 2014. 5. 6, 1ex. 2014. 11. 24)

西彼杵半島以外では生息地はあまり多くないようである。周囲が雑木林などで囲まれたような若干暗めの止水域で見つかることが多い。離

島では対馬と福江島の記録がある。

チャイロマメゲンゴロウ *Agabus browni*  
Kamiya, 1934

<記録>今坂(1999)、松井(2004)、初宿(2011)、深川(2014c)、松尾ほか(2014)

<確認地点>Hd9(1ex.), Hd16(1ex.), Hd45(1ex.), Mu21(1ex. 2014. 4. 26), Mu24(3exs. 2014. 9. 6), Sz6(1ex.), Sb33(1ex. 2014. 2. 23), Sb37(1ex. 2014. 5. 25), Sb40(1ex. 2014. 2. 9), Sk7(4exs. 2014. 2. 22, 2exs. 2014. 5. 11), Sk8(1ex.), Sk15(2exs.), Ns1(1ex. 2012. 8. 11, 2exs. 2012. 9. 2, 1ex. 2012. 11. 3), Ns10(1ex. 2014. 2. 22)

主に県北部と西彼杵半島の平地~低山地（標高約600m）で確認されたが、島原半島の記録もあるので、県本土に広く生息しているものと思われる。離島では対馬と宇久島の記録がある。

マメゲンゴロウ *Agabus japonicus* Sharp, 1873

<記録>白水・宮田(1976)、今坂ほか(1987)、楠井(1993)、今坂ほか(1994)、楠井(1994)、今坂(1999)、松尾(2000)、森・北山(2002)、松井(2004)、大庭ほか(2010)、初宿(2011)、足立(2013)、深川(2014c)、松尾ほか(2014)、伊藤ほか(2015)

<確認地点>Hd2(5exs. 2013. 12. 21), Hd9(1ex.), Hd16(1ex.), Hd18(1ex.), Hd19(1ex.), Hd35(1ex.), Hd37(1ex. 2014. 5. 17), Hd55(1ex.), Hd58(1ex.), Mu3(1ex.), Mu7(5exs. 2013. 12. 14, 1ex. 2014. 5. 3), Mu12(1ex.), Mu13(1ex.), Mu19(1ex.), Mu23(1ex. 2014. 4. 26, 1ex. 2014. 9. 6), Mu28(1ex. 2013. 12. 15, 1ex. 2014. 4. 26), Mu33(1ex.), Mu34(3exs.), Sz2(2exs. 2014. 2. 22), Sz6(1ex.), Sb10(1ex. 2014. 5. 25), Sb21(2exs. 2012. 12. 1), Sb29(1ex.), Sb33(3exs. 2014. 2. 23, 1ex. 2014. 5. 25), Sb34(1ex. 2014. 1. 12, 1ex. 2014. 5. 25), Sb37(1ex. 2014. 5. 25), Sb40(2exs. 2014. 2. 9, 1ex. 2014. 5. 25), Sb41(1ex.), Sb42(1ex.), Sb43(3exs.), Sb48(1ex. 2014. 3. 21, 1ex. 2014. 5. 25), Hs2(1ex.), Sk1(1ex. 2014. 4. 27), Sk3(1ex.), Sk4(1ex. 2014. 3. 23), Sk7(1ex. 2014. 2. 22, 1ex. 2014. 5. 11), Sk8(4exs.), Sk9(1ex.), Sk14

(lex.), Sk15(lex.), Sk23(lex.), Sk24(3exs.), Sk25(lex.), Sk31(2exs.), Sk34(lex.), Tgl(2exs.), Ns1(lex. 2012.4.22, lex. 2012.5.5, lex. 2012.7.7, 9exs. 2012.9.2, 3exs. 2012.10.13, lex. 2012.11.3, lex. 2012.12.22, lex. 2013.2.10, lex. 2013.3.2, lex. 2014.3.8, 4exs. 2014.4.20, 3exs. 2014.6.22), Ns3(lex.), Ns7(5exs.), Ns9(lex. 2014.5.18), Ns10(lex. 2014.2.9, 4exs. 2014.2.22, lex. 2014.5.6), Ns14(lex.), Ns17(lex. 2013.6.19), Is20(1 ex. 2014.11.9), Uz3(2exs.)

県本土各所の平地～低山地(標高約600m)に普通である。離島でも対馬、江ノ島、若松島、壱岐、福江島の記録があり、県内に広く生息しているようである。

キバリクロヒメゲンゴロウ *Ilybius apicalis*

Sharp, 1873

<記録>今坂ほか(1987), 楠井(1994), 今坂(1999), 森・北山(2002), 初宿(2011), 深川(2014c)

<確認地点>Hd49(5exs.), Mu24(2exs. 2014.9.6), Sk1(2exs. 2014.4.27, 10exs. 2014.8.17), Sk15(2exs.), Ns18(lex. 2010.10.10, lex. 2011.6.25, lex. 2012.9.22, lex. 2013.4.7, lex. 2013.4.14, 1 ex. 2013.5.5, lex. 2013.6.15, lex. 2013.7.13, 1 ex. 2013.8.24, lex. 2014.2.15, 10exs. 2014.4.29, 2exs. 2014.7.5), Ms15(3exs.)

県本土の平地に広く分布するが、やや局所的である。泥や腐植物が底に堆積したような止水域で見つかることが多い。離島では福江島の記録がある。

ヒメゲンゴロウ *Rhantus suturalis*

(Macleay, 1825)

<記録>中條(1961), 白水・宮田(1976), 今坂・阿比留(1985), 阿比留ほか(1986), 今坂ほか(1987), 今坂ほか(1994), 今坂(1999), 楠井(2000), 森・北山(2002), 松井(2004), 初宿(2011), 足立(2013), 深川(2014c), 松尾ほか(2014), 伊藤ほか(2015)

<確認地点>Hd2(3exs. 2013.12.21), Hd3(lex. 2012.10.8), Hd15(3exs. 2014.8.10), Hd53(lex.),

Mu4(lex.), Mu20(lex.), Mu23(2exs. 2014.9.6), Mu25(10exs.), Mu34(lex.), Sz4(lex. 2014.3.2), Sb48(lex. 2014.3.21), Sk3(3exs.), Ns3(lex.), Ns17(lex. 2012.7.8), Ns18(lex. 2012.9.22), Ms15(2exs.)

県本土の平地～低山地(標高約300m)に広く分布し、記録も少なくないが決して多い種でないようである。離島では対馬、福江島、的大島及び宇久島の記録がある。

ハイイロゲンゴロウ *Eretes griseus*

(Fabricius, 1781)

<記録>江崎ほか(1938), 今坂ほか(1987), 白水・宮田(1976), 浦川ほか(1977), 阿比留・今坂(1983), 布袋ほか(1993), 浦川(1994), 今坂(1999), 森・北山(2002), 山元(2005), 大串(2013, 2014c), 松尾ほか(2014), 伊藤ほか(2015)

<確認地点>Mu7(lex. 2013.12.14), Mu10(1 ex.), Sb18(lex.), Sb49(2exs.), Sk22(lex.), Ns1(1 ex. 2012.9.2), Ns17(2exs. 2012.9.8, lex. 2012.10.13, lex. 2012.11.3), Ns18(lex. 2012.9.22, 1 ex. 2013.4.14, lex. 2013.5.5, lex. 2013.8.24), Is21(lex. 2012.10.26)

県本土の平地～低山地(標高約400m)に広く分布する。本種は、よく飛翔し一時的な水たまりや河川の河口部にできた淵などでも見つかることがある。離島では対馬、壱岐及び宇久島の記録がある。

シマゲンゴロウ *Hydaticus bowringii*

Clark, 1864

<記録>江崎ほか(1938), 白水・宮田(1976), 森・北山(2002), 山本(2008), 深川・柴原(2012), 深川(2015a)

<確認地点>Mu4(3exs.), Mu10(6exs.), Mu23(6 exs. 2014.9.6), Mu24(6exs. 2014.9.6), Sb49(3 exs.)

深川(2015)の脱稿後に確認した地点も県北部に限られており、佐世保市街地以南では確認できていない。離島では対馬の記録がある。環境省RDLの準絶滅危惧。

コシマゲンゴロウ *Hydaticus grammicus*

(Germar, 1830)

<記録>江崎ほか (1938), 白水・宮田 (1976), 浦川ほか (1977), 江島ほか (1981), 阿比留・今坂 (1983), 今坂・阿比留 (1985), 今坂ほか (1987), 江島ほか (1988), 今坂ほか (1994), 浦川 (1994), 今坂 (1999), 山元 (1999), 松尾 (2000), 森・北山 (2002), 松井 (2004), 初宿 (2011), 足立 (2013), 深川 (2014c), 松尾ほか (2014), 伊藤ほか (2015)

<確認地点>Hd3(1ex. 2012. 10. 8), Hd9(2exs.), Hd37(1ex. 2014. 5. 17), Hd58(1ex.), Mu3(2exs.), Mu5(2exs. 2014. 5. 3), Mu7(2exs. 2014. 5. 3), Mu12(1ex.), Mu17(1ex.), Mu23(1ex. 2014. 9. 6), Mu24(1ex. 2014. 9. 6), Mu33(1ex.), Sz6(1ex.), Sb10(1ex. 2014. 5. 25), Sb33(1ex. 2014. 5. 25), Sb37(1ex. 2014. 5. 25), Sk7(1ex. 2014. 5. 11), Sk16(1ex.)

既往知見も多く、最も普通に見られる種と思われるが、確認できた場所は次種に比べ少なく、本県では決して多い種とはいえない。離島では対馬、壱岐、福江島及び宇久島の記録がある。

ウスイロシマゲンゴロウ *Hydaticus rhantoides*

Sharp, 1882

<記録>浦川ほか (1977), 浦川 (1994), 今坂 (1999), 森・北山 (2002), 大串 (2014c), 深川 (2014c), 伊藤ほか (2015)

<確認地点>Hd53(1ex.), Mu21(1ex. 2013. 12. 30, 1ex. 2014. 4. 26), Mu23(1ex. 2014. 4. 26), Mu28(3exs. 2014. 4. 26), Sz6(1ex.), Sk1(2exs. 2014. 8. 17), Sk4(1ex. 2014. 3. 23), Sk7(1ex. 2014. 5. 11), Sk13(2exs. 2014. 11. 2), Sk15(1ex.), Sk16(1ex.), Sk24(1ex.), Om1(1ex.), Tg1(1ex.), Ns1(1ex. 2012. 10. 13, 3exs. 2014. 4. 20, 3exs. 2014. 10. 4), Ns7(1ex.), Ns9(2exs. 2014. 5. 18), Ns14(1ex.), Ns17(1ex. 2014. 4. 27, 4exs. 2014. 9. 21), Ns18(1ex. 2014. 2. 15), Ns24(1ex.), Is2(1ex.), Is5(3exs.), Is6(2exs.), Is7(3exs.), Is12(2exs. 2013. 4. 21), Is17(1ex.), Is18(7exs.), Is20(1ex. 2014. 3. 16, 1ex. 2014. 4. 6, 1ex. 2014. 11. 9), Is21(4exs. 2012. 9. 30), Uz1(2exs.), Uz2(6exs.), Uz3(1ex.), Uz5(2

exs.), Ms2(1ex.), Ms3(2exs.), Ms7(1ex.), Ms9(3exs.), Ms13(1ex.), Ms14(3exs.), Ms15(2exs.), Ms16(1ex.), Ms17(1ex.)

各地の平地～低山地(標高約400m)に普通に産する。止水域のごく浅い水辺の植物片が堆積したような場所でよく確認される。離島では壱岐の記録のみである。

クロゲンゴロウ *Cybister brevis* Aube, 1838

<記録>長谷川(2011), 初宿(2011), 深川(2014c, 2014d), 伊藤ほか(2015)

<確認地点>Mu23(4exs. 2014. 4. 26, 4exs. 2014. 9. 6), Mu24(1ex. 2014. 9. 6), Sk24(1ex. 2013. 4. 21)

局所的ながら県本土の平地～低山地(標高約400m)に広く生息しているようである。生息環境悪化によって生息地が徐々に減少し、飛び地的な現状となっている可能性も否定できない。離島では福江島の記録がある。環境省 RDL の準絶滅危惧。

コガタノゲンゴロウ *Cybister tripunctatus lateralis* (Fabricius, 1798)

<記録>江崎ほか (1938), 白水・宮田 (1976), 田中・濱本 (1999), 長崎県 (2001), 森・北山 (2002), 深川・伊藤 (2012), 大庭 (2014), 大串 (2013, 2014b), 深川 (2014c, 2014d), 伊藤ほか (2015)

<確認地点>Hd31(1ex. 2014. 10. 19), Hd55(1ex. 2014. 5. 24), Mu4(1ex. 2014. 8. 30), Mu10(2exs. 2014. 8. 30), Hs2(2exs. 2014. 6. 1), Sk13(5exs. 2014. 11. 2), Ns3(1ex. 2014. 11. 3), Ns21(1ex. 2014. 10. 26), Is23(5exs. 2014. 11. 9), Uz2(1ex. 2014. 11. 23), Uz3(1ex. 2014. 11. 23), Ms1(17exs. 2014. 11. 15), Ms7(10exs. 2014. 11. 15), Ms15(5exs. 2014. 11. 16)

県本土では2010年頃から各地で確認されるようになった。現在では止水域に普通に産するようになったが、その原因は不明であり、今後の動向に注意が必要と思われる。離島では対馬と福江島の記録がある。環境省 RDL の絶滅危惧Ⅱ類、長崎県 RDL の絶滅危惧Ⅱ類。

ゲンゴロウ *Cybister chinensis* Motschulsky, 1854  
＜記録＞浦川ほか (1977), 浦川 (1994), 青木 (1996), 長崎県 (2001), 森・北山 (2002), 初宿 (2011), 伊藤ほか (2015)

今回の調査では確認できていない。本種は非常に少なくなっている可能性があり、再発見が望まれる。離島では杓岐と福江島で記録されているが、こちらも最近記録がない。環境省 RDL の絶滅危惧Ⅱ類, 長崎県 RDL の絶滅危惧ⅠA類。

#### ミズスマシ科 Gyridae

オナガミズスマシ *Orectochilus regimbarti regimbarti* Sharp, 1884

＜記録＞深川 (2014d)  
＜確認地点＞Ns3(lex.)

西彼杵半島の主に河川上流部の流水域で確認しているが少ない。なお、他のオナガミズスマシ類は本県では確認できていない。

#### ミズスマシ *Gyrinus japonicus* Sharp, 1873

＜記録＞江崎ほか (1938), 白水・宮田 (1976), 江島ほか(1981), 今坂ほか(1987), 今坂(1999), 松尾 (2000), 長崎県 (2001), 深川 (2014c), 松尾ほか (2014), 伊藤ほか (2015)  
＜確認地点＞Hd49(lex.), Hd51(lex.), Sz6(2exs.), Sz7(2exs. 2014. 3. 3, lex. 2014. 5. 25), Sk4(2exs. 2014. 4. 27), Sk12(lex.), Sk13(lex. 2013. 6. 16, lex. 2014. 11. 2), Sk27(2exs. 2012. 11. 23), Ns4(lex. 2012. 5. 17, 10exs. 2012. 5. 19, lex. 2013. 4. 18, lex. 2013. 4. 21), Ns9(5exs. 2014. 8. 17)

県北部や西彼杵半島の平地～低山地(標高約400m)で見つかっているが少ない。平地ではほとんど見かけなくなった。諫早市や島原半島でも記録があるものの、最近は見つかっていないようである。離島では対馬, 福江島及び宇久島の記録がある。環境省 RDL の絶滅危惧Ⅱ類, 長崎県 RDL の準絶滅危惧。

#### ヒメミズスマシ *Gyrinus gestroi* Régimbart, 1883

＜記録＞今坂ほか (1994), 今坂 (1999), 長崎県 (2001), 深川 (2014c), 松尾ほか (2014)

＜確認地点＞Mu3(8exs.), Mu34(6exs.), Sz9(lex. 2014. 2. 22, lex. 2014. 9. 22), Sb34(lex. 2014. 6. 12, 2exs. 2014. 5. 25), Sk4(3exs. 2014. 3. 23), Sk13(3exs. 2014. 11. 2), Ns9(3exs. 2014. 5. 18)

県北部や西彼杵半島の平地～低山地(標高約500m)で見つかっているが、前種同様少なく、平地ではほとんどみかけない。離島では、福江島と宇久島の記録がある。九州近県に分布が知られる近縁のコミズスマシは、今回確認する事ができなかった。環境省 RDL の絶滅危惧ⅠB類, 長崎県 RDL の絶滅危惧Ⅱ類。

オオミズスマシ *Dineutus orientalis* (Modeer, 1776)

＜記録＞江崎ほか (1938), 白水・宮田 (1976), 江島ほか (1981), 布袋ほか (1993), 今坂ほか (1994), 松尾 (2000), 長崎県 (2001), 深川 (2014c), 松尾ほか (2014)

＜確認地点＞Hd5(lex. 2011. 11. 11, lex. 2011. 11. 12), Hd6(lex.), Hd16(lex.), Hd49(lex.), Hd51(lex.), Mu1(2exs.), Mu2(lex.), Mu3(lex.), Mu7(2exs. 2013. 12. 14, lex. 2014. 5. 3), Mu9(1ex.), Mu13(lex.), Mu18(lex.), Mu20(3exs.), Mu29(lex.), Mu31(lex.), Mu34(lex.), Sz1(lex.), Sz7(lex.), Sb7(2exs. 2014. 3. 21), Sb10(lex. 2014. 5. 25), Sb33(lex. 2014. 2. 23), Sb34(lex. 2014. 1. 12, lex. 2014. 5. 25), Sb37(lex. 2014. 5. 25), Sb40(1ex. 2014. 2. 9), Sk28(lex.)

平戸島, 県北及び西彼杵半島の平地～低山地(標高約600m)で確認した。ミズスマシ科の中では多く確認できたが、県南部では少ないようである。離島では対馬, 五島福江島, 宇久島の記録がある。環境省 RDL の準絶滅危惧, 長崎県 RDL の絶滅危惧Ⅱ類。

#### ホソガムシ科 Hydrochidae

ヤマトホソガムシ *Hydrochus japonicus* Sharp, 1873

＜記録＞松尾 (2000), 深川 (2014c), 松尾ほか (2014)

＜確認地点＞Mu23(3exs. 2014. 9. 6), Mu24(5exs. 2014. 9. 6)

深川 (2014c) で報告した平戸島以外に松浦市鷹島で確認している。また、九州本土側となる平戸市田平町でも本種が確認されており (西澤正隆氏, 未発表), 少ないながら生息しているようである。離島では福江島と宇久島の記録がある。環境省 RDL の準絶滅危惧。

ダルマガムシ科 Hydraenidae

セスジダルマガムシ *Ochthebius inermis*

Sharp, 1884

<記録>今坂 (1999), 長崎県 (2001)

島原半島の記録があるのみである。調査不足と思われる。長崎県 RDL の絶滅危惧Ⅱ類。

ミヤタケダルマガムシ *Hydraena miyatakei*

M.Satō, 1959

<記録>深川 (2014c)

<確認地点>Hd1(2exs.), Hd16(3exs.), Hd37(5 exs. 2014. 5. 17), Mu3(3exs.), Mu8(1ex.), Mu10(1ex.), Sb12(1ex.), Sb14(1ex.), Is5(1ex.), Uz1(2 exs.)

県本土の平地~低山地 (標高約300m) に広く分布しているがあまり多くない。体長が1.5 mmと小さく確認しづらい種であることから、今後各地で見つかる可能性がある。

ガムシ科 Hydrophilidae

マルガムシ *Hydrocassis lacustris* (Sharp, 1884)

<記録>今坂 (1999), 深川 (2014c)

<確認地点>Hd15(1ex. 2015. 8. 10)

島原半島と平戸市の記録があるが少ない。河川上流部の川岸にある礫間や落ち葉が堆積した場所で採集しており、今後他の地域でも同様の場所を採集すれば見つかる可能性がある。

トゲバゴマフガムシ *Berosus lewisius* Sharp, 1873

<記録>白水・宮田 (1976), 江島ほか (1981), 阿比留・今坂 (1983), 今坂ほか (1987), 江島ほか (1988), 今坂ほか (1994), 今坂 (1999), 和田ほか (2001), 松尾 (2000), 松井 (2004), 深川 (2014c), 今坂・阿比留 (2014), 松尾ほか (2014), 伊藤ほか (2015)

<確認地点>Hd1(1ex.), Hd9(3exs.), Hd10(4 exs.), Hd15(1ex. 2014. 8. 10), Hd18(1ex.), Hd24(3exs.), Hd28(4exs. 2014. 5. 24, 1ex. 2014. 5. 31), Hd32(1ex.), Hd37(2exs. 2014. 5. 17), Mu2(1ex.), Mu3(4exs.), Mu5(5exs. 2014. 5. 3), Mu7(7exs. 2014. 5. 3), Mu12(1ex.), Mu13(1ex.), Mu17(4 exs.), Mu19(7exs.), Sz6(1ex.), Sz7(2exs. 2014. 5. 25), Sb10(1ex. 2014. 5. 25), Kt1(1ex.), Kt3(3 exs.), Hs2(2exs.), Sk6(2exs. 2012. 6. 20, 10exs. 2012. 6. 22, 1ex. 2012. 6. 28), Sk7(3exs. 2014. 5. 11), Ns1(1ex. 2012. 6. 3), Ns9(2exs. 2014. 5. 18), Ns18(1ex. 2013. 6. 15, 1ex. 2013. 7. 13), Is14(1 ex.)

県本土各地の平地~低山地 (標高約400m) に普通に産する。離島でも対馬, 福江島, 宇久島の記録がある。灯火にもよく飛来する。

シナトゲバゴマフガムシ *Berosus increatus*

Orchment, 1937

<記録>今坂 (1999)

島原半島の記録のみである。

ヤマトゴマフガムシ *Berosus japonicus*

Sharp, 1873

<記録>今坂 (1999), 深川 (2014c), 松尾ほか (2014)

<確認地点>Hd54(1ex. 2012. 9. 9), Mu24(3exs. 2014. 9. 6), Mu28(12exs. 2014. 4. 26), Tg1(1ex.)

県北部と時津町で確認しているがあまり多くない。離島では宇久島の記録がある。

ゴマフガムシ *Berosus punctipennis* Harold, 1878

<記録>江島ほか (1981), 今坂ほか (1994), 今坂 (1999), 松尾 (2000), 松井 (2004), 深川 (2014c), 松尾ほか (2014)

<確認地点>Hd22(1ex.), Hd27(4exs.), Hd58(4 exs.), Mu5(1ex. 2014. 5. 3), Mu19(1ex.), Mu21(8 exs. 2014. 4. 26)

県北部で確認している。普通に産する種と思われたが、県本土ではあまり多くないようである。離島では福江島, 野崎島及び宇久島の記録がある。

マメガムシ *Regimbartia attenuata*

(Fabricius, 1801)

<記録>今坂(1999), 松井(2004), 深川(2014c), 松尾ほか(2014)

<確認地点>Hd9(1ex.), Hd19(5exs.), Hd37(1ex. 2014. 5. 17), Hd50(1ex.), Hd52(1ex.), Hd55(1ex.), Hd58(1ex.), Mu3(1ex.), Mu4(1ex.), Mu5(1ex. 2014. 5. 3), Mu10(1ex.), Mu12(2exs.), Mu17(1ex.), Mu21(1ex. 2014. 4. 26), Mu23(1ex. 2014. 4. 26, 2exs. 2014. 9. 6), Mu24(1ex. 2014. 9. 6), Mu26(1ex.), Sz6(1ex.)

県北部で多く確認されたが, 県南部では確認できなかった。これまで島原半島の記録もあるものの, 県南部では非常に少なくなっている可能性がある。

タマガムシ *Amphiops mater mater* Sharp, 1873

<記録>今坂(1999), 今坂・西田(2002), 松井(2004), 大串(2014c), 深川(2014c), 松尾ほか(2014), 深川(2015c)

<確認地点>Hd1(1ex.), Hd2(1ex. 2014. 4. 12), Hd4(1ex.), Hd9(1ex.), Hd16(1ex.), Hd18(3exs.), Hd19(1ex.), Hd25(1ex.), Hd26(10exs.), Hd27(1ex.), Hd28(1ex. 2014. 5. 24), Hd32(1ex.), Hd34(2exs.), Hd35(1ex.), Hd37(1ex. 2014. 5. 17), Hd45(1ex.), Hd49(2exs.), Hd50(1ex.), Hd52(1ex.), Hd53(1ex.), Hd55(1ex.), Hd56(1ex.), Hd57(1ex.), Mu1(1ex.), Mu5(1ex. 2014. 5. 3), Mu10(1ex.), Mu19(1ex.), Mu20(1ex.), Mu23(1ex. 2014. 4. 26, 1ex. 2014. 9. 6), Mu28(1ex. 2014. 4. 26), Sz1(1ex.), Sz5(1ex.), Sz6(1ex.), Sz9(1ex. 2014. 9. 22), Sb10(1ex. 2014. 5. 25), Sb12(1ex.), Sb13(1ex.), Sb14(1ex.), Sb34(1ex. 2014. 1. 12), Sb40(1ex. 2014. 5. 25), Sb43(1ex. 2014. 8. 31), Hs1(1ex.), Sk1(2exs. 2014. 4. 27), Sk4(2exs. 2014. 3. 23, 1ex. 2014. 4. 27), Sk7(1ex. 2014. 5. 11), Sk18(1ex.), Ns1(1ex. 2012. 5. 5, 2012. 6. 3, 1ex. 2012. 7. 7), Ns17(2exs. 2012. 6. 2, 1ex. 2012. 7. 8, 1ex. 2012. 9. 1, 3exs. 2012. 10. 13, 1ex. 2014. 4. 27), Ns18(2exs. 2010. 10. 10, 1ex. 2012. 6. 9, 1ex. 2012. 9. 22, 3exs. 2013. 4. 7, 1ex. 2013. 4. 14, 2exs. 2013. 6. 15, 1ex. 2013. 7. 13, 1ex. 2013. 8. 24, 4exs. 2014. 7. 5), Is3

(1ex.), Is9(1ex.), Is15(1ex.), Is17(1ex.), Is20(1ex. 2014. 4. 6), Is23(1ex.), Ms3(1ex.), Ms7(2exs.), Ms10(1ex.), Ms14(1ex.)

県本土各地の止水域に普通に産する。離島でも宇久島で記録されている。

シジミガムシ *Laccobius bedeli* Sharp, 1884

<記録>中條(1961), 白水・宮田(1976), 池崎・江島(1990), 今坂・西田(2002), 大串ほか(2014)

今回得られたシジミガムシ属の記録については, 大串ほか(2014)で先に報告しているの以下3種については記録のみとする。

ミユキシジミガムシ *Laccobius miyuki*

Matsui, 1986

<記録>大串ほか(2014), 伊藤ほか(2015)

コモンシジミガムシ *Laccobius oscillans*

Sharp, 1884

<記録>今坂ほか(1994), 今坂(1999), 松尾ほか(2014), 大串ほか(2014)

ツヤヒラタガムシ *Agraphydrus narusei*

(Satô, 1960)

<記録>今坂・西田(2002), 今坂・三宅(2011)  
<確認地点>Hd15(1ex. 2014. 8. 10), Ns10(1ex. 2014. 5. 6)

河川の堰の上流側にある砂礫が堆積した流れが緩やかな場所のような環境で見つかる。県内ではまだ調査不足と思われる。

ルイスヒラタガムシ *Helochares pallens*

(MacLeay, 1825)

<記録>今坂(1999), 今坂・西田(2002), 松井(2004), 大串(2014c), 深川(2014c, 2015c), 伊藤ほか(2015)

<確認地点>Hd2(1ex. 2014. 4. 12), Hd9(2exs.), Hd32(2exs.), Hd37(5exs. 2014. 5. 17), Hd52(1ex.), Hd53(1ex.), Hd54(2exs. 2014. 3. 15), Hd55(1ex.), Hd58(1ex.), Mu1(2exs.), Mu3(2exs.), Mu4(2exs.), Mu10(5exs.), Mu12(1ex.), Mu13(1ex.),

Mu19(3exs.), Mu20(2exs.), Mu23(4exs. 2014. 4. 26, 2exs. 2014. 9. 6), Mu24(3exs. 2014. 9. 6), Mu26(1ex.), Mu28(2exs. 2014. 4. 26), Mu34(1ex.), Sz4(2exs. 2014. 3. 2), Sb10(1ex. 2014. 5. 25), Sb30(1ex.), Sb40(2exs. 2014. 5. 25), Sk1(6exs. 2014. 4. 27, 1ex. 2014. 8. 17), Sk13(1ex. 2014. 11. 2), Sk17(1ex.), Ns14(1ex.), Ns17(2exs. 2014. 4. 27), Ns18(1ex. 2013. 6. 15, 1ex. 2013. 8. 24, 10exs. 2014. 7. 5), Is20(1ex. 2014. 3. 16, 1ex. 2014. 4. 6, 4exs. 2014. 11. 9), Is23(6exs. 2014. 11. 9), Uz1(2exs.), Uz5(10exs.), Ms7(4exs.), Ms10(1ex.), Ms12(1ex.), Ms14(3exs.)

県本土各地の止水域に普通に産する。生息地では多産していることが多い。

#### スジヒラタガムシ *Helochares nipponicus*

Hebauer, 1995

<記録>松井(2004)

<確認地点>Hd35(6exs.), Mu10(2exs.), Sb12(1ex.), Sb14(1ex.), Sk4(3exs. 2014. 3. 23), Sk7(1ex. 2014. 5. 11), Sk9(2exs.), Sk10(1ex.), Sk13(6exs. 2014. 11. 2), Sk32(1ex.), Ns1(4exs. 2012. 8. 11, 3exs. 2014. 6. 22), Ns6(1ex.), Ns9(3exs. 2014. 5. 18), Ns10(1ex. 2014. 2. 22, 1ex. 2014. 5. 6, 1ex. 2014. 11. 24), Is15(4exs.)

県北部から県中部にかけて確認しているが、やや局所的である。離島からは知られていない。本種と前種は、雌が卵塊を腹部に付着させて行動するようである。環境省 RDL の準絶滅危惧。

#### キベリヒラタガムシ *Eochrus japonicus*

(Sharp, 1873)

<記録>今坂(1999), 深川(2014c), 伊藤ほか(2015)

<確認地点>Hd18(5exs.), Sk8(13exs.), Sk9(1ex.), Ns9(4exs. 2014. 5. 18, 2exs. 2014. 8. 17), Ns10(7exs. 2014. 2. 22, 3exs. 2014. 11. 24)

平戸島と西彼杵半島で確認したが、やや調査不足と思われる。平戸では薄暗い林内にあるごく小さな池で落ち葉が水面近くまで堆積したような場所で見つけている。

#### キイロヒラタガムシ *Eochrus simulans*

(Sharp, 1873)

<記録>中條(1961), 白水・宮田(1976), 江島ほか(1981), 阿比留・今坂(1983), 今坂・阿比留(1985), 今坂ほか(1987), 江島ほか(1988), 布袋ほか(1993), 今坂ほか(1994), 今坂(1999), 和田ほか(2001), 松尾(2000), 松井(2004), 深川(2014c), 今坂・阿比留(2014), 松尾ほか(2014), 伊藤ほか(2015)

<確認地点>Hd2(3exs. 2014. 4. 12), Hd3(3exs. 2012. 10. 8), Hd4(1ex.), Hd9(1ex.), Hd27(1ex.), Hd28(1ex. 2014. 5. 24), Hd32(2exs.), Hd35(1ex.), Hd37(1ex. 2014. 5. 17), Hd53(1ex.), Hd54(1ex. 2012. 9. 9, 1ex. 2014. 3. 15), Hd58(2exs.), Mu1(1ex.), Mu2(1ex.), Mu3(1ex.), Mu5(1ex. 2014. 5. 3), Mu9(1ex.), Mu10(1ex.), Mu13(1ex.), Mu16(1ex.), Mu17(1ex.), Mu19(1ex.), Mu23(1ex. 2014. 9. 6), Mu24(2exs. 2014. 9. 6), Mu28(1ex. 2014. 4. 26), Mu33(1ex.), Sb10(1ex. 2014. 5. 25), Sb34(2exs. 2014. 5. 25), Sb35(1ex. 2014. 5. 25), Sb37(1ex. 2014. 5. 25), Sb42(1ex.), Kt1(2exs.), Sk4(1ex. 2014. 3. 23, 1ex. 2014. 4. 27), Sk6(1ex. 2012. 6. 20), Sk7(1ex. 2014. 5. 11), Sk9(1ex.), Sk18(1ex.), Sk25(3exs.), Om1(1ex.), Om3(1ex.), Om4(1ex.), Om6(2exs.), Om7(6exs.), Ns17(1ex. 2012. 8. 18), Ns18(2exs. 2013. 6. 15, 1ex. 2013. 7. 13, 10exs. 2014. 4. 29, 10exs. 2014. 7. 5), Is2(2exs.), Is13(1ex.), Is15(1ex.), Is18(5exs. 2012. 10. 20), Is20(15exs. 2014. 3. 16, 5exs. 2014. 3. 22, 1ex. 2014. 4. 6, 1ex. 2014. 11. 9), Is22(2exs. 2014. 8. 16), Is23(6exs. 2014. 11. 9), Uz1(1ex.), Uz2(3exs.), Uz5(1ex.), Uz6(1ex.), Ms1(3exs.), Ms4(3exs.), Ms7(1ex.), Ms9(3exs.), Ms14(2exs.)

県本土各地の止水域にヒメガムシと共に最も普通に産する。離島では、対馬、福江島、小値賀島、中通島及び宇久島の記録がある。

#### チビヒラタガムシ *Eochrus esuriens*

(Walker, 1858)

<記録>今坂(1999), 松尾ほか(2014)

今回の調査では確認することができなかった。本県では少ない種と考えられる。



マルヒラタガムシ *Enochrus subsignatus* (Harold, 1877)

<記録>今坂 (1999)

<確認地点>Ns18(3exs. 2012. 6. 9, 4exs. 2013. 4. 14, lex. 2013. 5. 5, 5exs. 2013. 6. 15, lex. 2013. 7. 13, lex. 2013. 8. 24, 4exs. 2014. 7. 5), Ms1(lex.), Ms7(2exs.), Ms14(4exs.)

県南部のみで確認されており局所的である。環境省 RDL の準絶滅危惧。

ヒメガムシ *Sternolophus rufipes* (Fabricius, 1792)

<記録>江崎ほか(1938), 中條(1961), 白水・宮田(1976), 江島ほか(1981), 阿比留ほか(1986), 今坂ほか(1987), 今坂ほか(1994), 今坂(1999), 山元(1999), 松尾(2000), 池崎(2003), 松井(2004), 足立(2013), 大串(2014b, 2014c), 深川(2014c), 松尾ほか(2014), 伊藤ほか(2015)  
<確認地点>Hd2(lex. 2014. 4. 12), Hd3(5exs. 2012. 10. 8, lex. 2014. 5. 10), Hd9(lex.), Hd15(1 ex. 2014. 8. 10), Hd27(lex.), Hd32(lex.), Hd35(1 ex.), Hd36(lex.), Hd37(lex. 2014. 5. 17), Hd40(2 exs.), Hd53(lex.), Hd54(lex. 2012. 9. 9), Hd57(1 ex.), Hd58(lex.), Hd59(4exs.), Mu1(lex.), Mu2(lex.), Mu3(lex.), Mu4(lex.), Mu7(lex. 2013. 12. 14, lex. 2014. 5. 3), Mu9(lex.), Mu10(lex.), Mu12(lex.), Mu15(lex.), Mu16(2exs.), Mu17(1 ex.), Mu20(lex.), Mu21(lex. 2014. 4. 26), Mu23(lex. 2014. 4. 26, lex. 2014. 9. 6), Mu24(5exs. 2013. 12. 30, lex. 2014. 9. 6), Mu28(lex. 2014. 4. 26), Sz6(lex.), Sz7(lex. 2014. 5. 25), Sz9(lex. 2014. 9. 22), Sb3(lex. 2014. 3. 2), Sb9(lex.), Sb12(lex.), Sb14(lex.), Sb28(lex.), Sb34(lex. 2014. 5. 25), Sb40(lex. 2014. 5. 25), Sb41(lex.), Hs2(lex.), Sk1(lex. 2014. 8. 17), Sk4(3exs. 2014. 3. 23), Sk6(2exs. 2012. 6. 20, lex. 2012. 6. 22), Sk7(lex. 2014. 5. 11), Sk9(lex.), Sk13(lex. 2014. 11. 2), Sk14(lex.), Sk15(10exs.), Sk16(lex.), Sk17(lex.), Sk18(lex.), Sk25(lex.), Sk31(lex.), Om1(lex.), Ns1(lex. 2012. 5. 5, lex. 2012. 8. 11, 7exs. 2012. 9. 2, 1 ex. 2012. 10. 13, 1 ex. 2014. 4. 20), Ns7(4exs.), Ns8(lex.), Ns9(10exs. 2014. 5. 18), Ns11(3exs.), Ns12(lex.), Ns14(lex.), Ns16

(3exs.), Ns17(lex. 2012. 6. 2, lex. 2012. 8. 18, lex. 2012. 9. 1, lex. 2012. 10. 13, 2exs. 2012. 11. 3, lex. 2013. 2. 10, lex. 2014. 4. 27, 3exs. 2014. 9. 21), Ns18(2exs. 2010. 10. 10, 1 ex. 2013. 7. 13, lex. 2014. 2. 15, 3exs. 2013. 4. 7, lex. 2014. 7. 5), Ns24(lex.), Is2(lex.), Is3(lex.), Is7(2exs.), Is12(2exs.), Is15(lex.), Is16(lex.), Is17(lex.), Is18(lex.), Is20(1 ex. 2014. 3. 16, lex. 2014. 4. 6, lex. 2014. 11. 9), Is21(4exs. 2012. 9. 30, 6exs. 2012. 10. 26), Is22(1 ex.), Is23(lex.), Uz1(2exs.), Uz2(lex.), Uz3(1 ex.), Uz4(lex.), Uz5(4exs.), Uz6(lex.), Ms2(1 ex.), Ms3(lex.), Ms7(5exs.), Ms8(lex.), Ms16(3 exs.)

県本土各地の止水域に最も普通に産する。

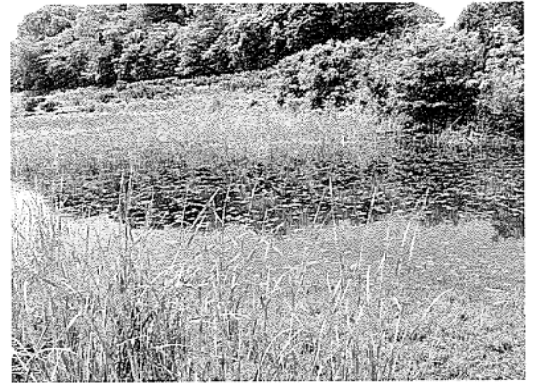


図3. 西海市の水生甲虫類生息地 (Sk18)

コガムシ *Hydrochara affinis* (Sharp, 1873)

<記録>江崎ほか(1938), 白水・宮田(1976), 今坂ほか(1994), 今坂(1999), 長崎県(2001), 松尾ほか(2014)

県本土では、西彼杵半島や島原半島で記録されているが、今回の調査では確認できなかった。本県では宇久島を除き、決して多い種ではない。佐賀県では、近縁のエゾコガムシの記録があり、筆者も採集しているが(7exs. 2003. 9. 14, 佐賀県佐賀市富士町大字大野), 県内では確認できていない。環境省 RDL の情報不足, 長崎県 RDL の準絶滅危惧。

ガムシ *Hydrophilus acuminatus* Motschulsky, 1854

<記録>江崎ほか(1938), 森・晴気(1975), 白水・宮田(1976), 浦川ほか(1977), 今坂ほ

か (1987), 今坂・松尾 (1989), 中山 (1991), 浦川 (1994), 今坂 (1999), 松尾 (2000), 長崎県 (2001), 深川・伊藤 (2015), 伊藤ほか (2015)

本県では各地に記録が残っているが, 最近では少なくなっており, 生息する場所も非常に限られている。離島でも対馬, 壱岐の記録がある。環境省 RDL の準絶滅危惧, 長崎県 RDL の絶滅危惧Ⅱ類。

コガタガムシ *Hydrophilus bilineatus cashimirensis* Redtenbacher, 1844

<記録>今坂 (1999), 長崎県 (2001), 深川・伊藤 (2015)

県内では, 最近1ヶ所のみでしか確認されておらず, 非常に危機的な状況と考えられる。何らかの保全策が必要と思われる。環境省 RDL の絶滅危惧Ⅱ類, 長崎県 RDL の絶滅危惧Ⅱ類。

ヒメセマルガムシ *Coelostoma orbiculare* (Fabricius, 1775)

<記録>今坂 (1999), 今坂・西田 (2002), 深川 (2014c)

<確認地点>Sk1(3exs.2014.8.17), Sk6(1ex.2012.6.22, 1ex.2012.7.14, 1ex.2012.7.24), Ns1(2exs.2012.8.11, 2exs.2014.6.22), Ns7(1ex.), Ns17(3exs.2012.7.8, 2exs.2012.9.1), Uz2(1ex.), Ms17(1ex.)

西彼杵半島や島原半島などで確認しているが  
多くない。

セマルガムシ *Coelostoma stultum* (Walker, 1858)

<記録>阿比留ほか (1986), 江島ほか (1988), 今坂 (1999), 今坂・西田 (2002), 松尾ほか (2014), 伊藤ほか (2015)

<確認地点>Hd15(1ex.2014.8.10), Mu23(2exs.2014.9.6), Mu24(3exs.2014.9.6), Sk9(2exs.), Ns17(1ex.2012.8.18), Ns18(7exs.2010.10.10, 1ex.2012.6.9, 1ex.2012.9.22, 1ex.2013.4.7, 1ex.2013.4.14, 1ex.2013.5.5, 2exs.2013.6.15, 1ex.2013.7.13, 1ex.2013.8.24, 10exs.2014.4.29, 3exs.2014.7.5), Is20(1ex.2014.4.6), Ms9(4exs.)

県本土に広く分布するがあまり多くない。離島では宇久島の記録がある。

以上, 県本土には過去の報告を含め, コツプゲンゴロウ科3種, ゲンゴロウ科34種, ミズスマシ科4種, ダルマガムシ科2種, ホソガムシ科1種およびガムシ科23種の計67種が記録されたことになる。このうち, チビゲンゴロウ, マメゲンゴロウ, ウスイロシマガンゴロウ, タマガムシ, トゲバゴマフガムシ及びヒメガムシは, 県本土各所の止水域で確認することができ, 健全な状態が維持されているものと思われた。一方, キボシチビコツプゲンゴロウ, シャープツブゲンゴロウ, コクロマメゲンゴロウ, ゲンゴロウ, セスジダルマガムシ, シナトゲバゴマフガムシ及びチビヒラタガムシの8種は, 今回の調査で確認するに至っていない。また, これ以外の種においても確認場所が局所的であるものが少なくない。本調査場所とこれらの種の生息環境にずれがあるのかもしれないが, 県本土では前述の一部の種を除き, 多くの種で少なくなっている可能性がある。特に, キボシチビコツプゲンゴロウ, シャープツブゲンゴロウ及びゲンゴロウは, 本県では絶滅もしくはそれに近い状態であるものと考えられ, 今後更なる調査が必要である共に, 保護・保全策が必要と思われる。

## 文 献

阿比留巨人・今坂正一 1983. 長崎市南部の甲虫類 (1). こがねむし, (42):35-45. 長崎昆虫研究会.

阿比留巨人・今坂正一・野田正美 1986. 長崎市南部の甲虫類 (2). こがねむし, (47):27-42. 長崎昆虫研究会.

足立一夫 2013. 九州から発見されたキアシネクイハムシ. 月刊むし, (510):28-31.

青木良夫 1996. 西彼杵半島でゲンゴロウを採集. こがねむし, (58):42. 長崎昆虫研究会.

江崎悌三・堀浩・安松京三 1938. 原色日本昆虫図説. 426+pls.189. 三省堂.

江島正郎・古川雅通・後藤安一郎・市場利哉・

- 今坂正一・池崎善博・岸田泰則・中山博彦・緒方一夫・志方比呂基・高橋篤美・浦田明夫・吉田喜美明 1981. 五島列島産昆虫目録. 五島の生物-奄岐・対馬との対比一, 247-332. 長崎県生物学会.
- 江島正郎・峰正隆・水上靖・桃下大・田中清 1988. 本明川の昆虫相. こがねむし, (49): 10-28. 長崎昆虫研究会.
- 深川元太郎 2012. 長崎県におけるヒコサンセスジゲンゴロウの記録. こがねむし, (77): 88. 長崎昆虫研究会.
- 深川元太郎 2014a. 長崎県におけるムモンチビコツブゲンゴロウ (コウチュウ目, コツブゲンゴロウ科) の記録. 長崎県生物学会誌, (74): 25-26.
- 深川元太郎 2014b. 長崎県におけるアンピンチビゲンゴロウ (コウチュウ目, ゲンゴロウ科) の記録. 長崎県生物学会誌, (75): 32-33.
- 深川元太郎 2014c. 長崎県平戸島のヤマトホソガムシ (コウチュウ目, ホソガムシ科) の分布と水生甲虫類の記録. 長崎県生物学会誌, (75): 34-37.
- 深川元太郎 2014d. 長崎県における甲虫類若干の記録. KORASANA, (82): 11-16. 図版 1. 久留米昆虫研究会.
- 深川元太郎 2015a. 長崎県におけるゲンゴロウ科 3 種の記録. こがねむし, (80): 33-35. 長崎昆虫研究会.
- 深川元太郎 2015b. 長崎市におけるセスジゲンゴロウ属の採集記録. こがねむし, (80): 36-38. 長崎昆虫研究会.
- 深川元太郎 2015c. 長崎県におけるエサキアメンボの追加記録. こがねむし, (80): 49-50. 長崎昆虫研究会.
- 深川元太郎・細江文子 2001. キボシケシゲンゴロウを西彼杵半島で採集. こがねむし, (66): 59. 長崎昆虫研究会.
- 深川元太郎・伊藤雅男 2012. 長崎県のコガタノゲンゴロウ採集記録. こがねむし, (78): 1-5. 長崎昆虫研究会.
- 深川元太郎・伊藤雅男 2015. 長崎県におけるガムシ属 2 種の記録. こがねむし, (80): 39-40. 長崎昆虫研究会.
- 深川元太郎・柴原克己 2012. 対馬のシマゲンゴロウの記録. こがねむし, (78): 6-7. 長崎昆虫研究会.
- 深川元太郎・今坂正一 2014. 長崎県のナガマルチビゲンゴロウの記録. SAYABANE n.s., (14): 44. 日本甲虫学会.
- 長谷川匡弘 2011. 長崎県平戸島でクロゲンゴロウを採集. KORASANA, (79): 71. 久留米昆虫研究会.
- 布袋厚・後藤安一郎・松田亨 1993. 長崎市式見牧場付近の昆虫相 I. こがねむし, (54): 1-21. 長崎昆虫研究会.
- 池崎善博・江島正郎 1990. 長崎県男女群島陸生動物相調査 (1989年 5 月) 報告. こがねむし, (51): 13-39. 長崎昆虫研究会.
- 池崎善博 2003. 唐比湿地の昆虫類. 唐比湿地の自然調査報告書, 43-52. 長崎県森山町.
- 今坂正一 1978. 1978年に採集した多良岳の甲虫. こがねむし, (33): 1-29. 長崎昆虫研究会.
- 今坂正一 1999. 島原半島の甲虫相 1. 長崎県生物学会誌, (50): 125-170.
- 今坂正一 2009. 大野原で確認した昆虫類-長崎県 RDB の見直し調査の一環として-. こがねむし, (75): 1-25. 長崎昆虫研究会.
- 今坂正一・阿比留巨人 1985. 1984年に採集した対馬の甲虫. こがねむし, (45): 1-15. 長崎昆虫研究会.
- 今坂正一・阿比留巨人 2014. 長崎市彦山とその周辺の甲虫類 (2012) -彦山虫採り散歩 (3) と新たな 2ヶ所ほかで得られた甲虫-. こがねむし, (79): 34-61. 長崎昆虫研究会.
- 今坂正一・青木良夫・池崎善博・楠井善久・日下部良康・桃下大・野田正美・田中清・長崎北陽台高校生物部 1994. 五島列島において 1982年から 1994年に新たに採集と報告された甲虫 (1). 長崎県生物学会誌, (44): 59-76.
- 今坂正一・松尾照男 1989. 平戸の甲虫類. 日本の生物, 3 (9): 18-22.
- 今坂正一・三宅 武 2011. 大分県で採集した

- 興味深い甲虫 (2008-2010). 二豊のむし, (49): 33-62. 大分昆虫同好会.
- 今坂正一・西田光康 2002. 多良岳の甲虫相 2001—1987年～2001年の追加と訂正一. 佐賀の昆虫, (36): 389-480. 佐賀昆虫同好会.
- 今坂正一・西田光康・緒方健 1987. 1987年に採集した多良岳の甲虫. こがねむし, (48): 13-21.
- 今坂正一・緒方健・西田光康 1987. 多良岳の甲虫相. 佐賀の昆虫, (19): 176-260.
- 井上大輔・中島 淳 2009. 福岡県の水生昆虫図鑑. 196pp. 株式会社マツモト.
- 伊藤雅男・青木良夫・阿比留巨人・今坂正一・伊達木薫・野田正美・深川元太郎・山本啓弘 (長崎昆虫研究会甲虫会グループ) 2015. 長崎バイオパークで採集した甲虫類. こがねむし, (80): 106-125. 長崎昆虫研究会.
- Kamiya, K. 1938. A systematic study of the Japanese Dytiscidae. J. Tokyo Nogyo Daigaku, 5:1-168. 7 pls.
- 楠井善久 1993. 未だ繰り返される沈黙の春—江ノ島採集記一. こがねむし, (54): 40-46. 長崎昆虫研究会.
- 楠井善久 1994. 樺島の甲虫採集記録. 長崎県生物学会誌, (43): 69-75.
- 楠井善久 2000. 的山大島の甲虫採集記録. こがねむし, (63): 37-44. 長崎昆虫研究会.
- 松井英司 2004. 長崎県で採集された水生甲虫類. 北九州の昆虫, 50 (2): 91-92.
- 松尾照男 2000. 長崎県平戸島の甲虫類総目録—1999年現在—. こがねむし, (63): 1-21. 長崎昆虫研究会.
- 松尾照男・下条清隆・西海学園高等学校科学同好会 2014. 上五島宇久島の甲虫類採集記録. こがねむし, (79): 5-27. 長崎昆虫研究会.
- 桃下大 2001. 多良山系の甲虫類. 多良岳の生物, 103-118. 長崎県生物学会.
- 森展一・晴気浩明 1975. 壱岐で採集した昆虫. 佐賀の昆虫, (5): 1-5.
- 森正人・北山昭 2002. 改訂版図説日本のゲンゴロウ. 231pp. 文一総合出版.
- 長崎県 2001. ながさきの希少な野生動植物—レッドデータブック2001—. 568pp.
- 中条道崇 1961. 対馬の甲虫類. Mikado, 1 (1): 1-16.
- 中根猛彦 1980. 対馬の甲虫. 月刊むし, (117): 45-51.
- 中山不覇 1991. ガムシの対馬での記録. 月刊むし, (240): 36.
- 野村周平・溝上誠司・大塚健之 1996. 佐賀県の水生甲虫. 佐賀県の生物, 249-262.
- 大庭伸也・松尾公則・高木正洋 2010. 長崎市休耕田ビオトープにおけるカ科およびその天敵水生昆虫. 長崎県生物学会誌, (67): 1-5.
- 大庭伸也 2014. 長崎市相川町ビオトープにおけるコガタノゲンゴロウ. 長崎県生物学会誌, (74): 27-29.
- 大串俊太郎 2013. 長崎総合科学大学内の一時的な水域で採集されたコガタノゲンゴロウ. 長崎県生物学会誌, (73): 18-20.
- 大串俊太郎 2014a. 長崎県におけるムツボシツヤコツブゲンゴロウの記録. 長崎県生物学会誌, (74): 31-32.
- 大串俊太郎 2014b. 長崎ペンギン水族館のビオトープにおける水生動物群集. 長崎県生物学会誌, (75): 14-23.
- 大串俊太郎 2014c. 黒崎永田湿地自然公園における動物群集. 長崎県生物学会誌, (75): 24-31.
- 大串俊太郎・大庭伸也・深川元太郎 2014. 長崎県におけるシジミガムシ属の記録. 長崎県生物学会誌, (75): 9-13.
- Sato, M. 1964. Studies on the marine beetles in Japan, II. Study on the Dytiscid-beetle dwelling in the tide pool. Journal of the Nagoya Jogakuin college, (10): 60-71.
- 佐藤正孝 1985. コツブゲンゴロウ科, ゲンゴロウ科, ミズスマシ科, ダルマガムシ科, ホソガムシ科, ガムシ科. in 上野俊一・黒沢良彦・佐藤正孝編原色日本甲虫図鑑 (II), 182-216. 保育社.
- Sharp, D. M. B. 1882. On aquatic carnivorous Coleoptera or Dytiscidae. The Scientific transactions of the Royal Dublin society, vol.2, ser. II, 179-

- 1003 pls.7-18.
- 白水隆・宮田彬(編) 1976. 対馬産昆虫類目録. 対馬の生物, 567-763. 長崎県生物学会.
- 初宿成彦編 2011. 大阪市立自然史博物館収蔵資料目録第43集大阪市立自然史博物館所蔵甲虫類目録(1). 197pp. 大阪市立自然史博物館.
- 多以良嘉晃・北野忠 2000. 静岡県葦山町でチンメルマンセスジゲンゴロウを採集. 月刊むし, (357):244.
- 田中清・濱本卓 1999. コガタノゲンゴロウ福江島に産す. こがねむし, (61):9. 長崎昆虫研究会.
- 浦川虎郷・江島正郎・松尾公則・壱岐高校生物部 1977. 壱岐の甲虫類. 壱岐の生物-対馬との対比-, 357-365. 長崎県生物学会.
- 浦川虎郷 1994. 壱岐島動物目録. 島の科学, (61):47-69. 壱岐「島の科学」研究会.
- 和田義人・今坂正一・野田正美・青木良夫・山元宣征 2001. 金比羅山の甲虫目録. こがねむし, (65):19-57. 長崎昆虫研究会.
- 山元宣征 1999. 街灯に飛来した甲虫類について. こがねむし, (61):21-30. 長崎昆虫研究会.
- 山元宣征 2005. 炎天下に飛翔するハイイロゲンゴロウ. こがねむし, (70):31. 長崎昆虫研究会.
- 山本周平 2008. 対馬における「シマゲンゴロウ」の記録. KORASANA, (76):50. 久留米昆虫研究会.